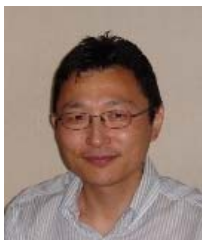


【若手研究(S)】

人文社会系（人文学）



研究課題名 海外引揚問題と戦後東アジアの地域変動に関する 国際的総合研究

国文学研究資料館・文学資源研究系・助教 かとう きよふみ
加藤 聖文

研究分野：日本近現代史

キーワード：日本史・東洋史・国際関係・アーカイブズ・近現代史

【研究の背景・目的】

本研究は、平成15年度～平成17年度の3年間にわたって実施した、科学研究費助成：若手研究A「海外引揚問題と戦後日本人の東アジア観形成に関する基盤的研究」を発展させたものである。

前回の研究をより深化させる本研究は、①海外引揚研究を発展させるための研究資源（文書資料や口述記録など）の積極的な収集と保存により消滅の危機にある資料の散逸を防ぎ、次世代へ研究資源の継承を図る。②海外引揚研究のなかで未開拓分野である国際関係史的アプローチと比較史的アプローチを行い、海外引揚研究の総合的かつ国際的な共同研究の基盤の構築と若手研究者の育成を図る。以上、2つの目的の達成を目指すものである。

【研究の方法】

上記の目的に基づき、本研究計画では2つの研究の柱を立てる。1つ目の柱は、引揚者に対する組織的な口述記録および引揚者団体などが所蔵する一次資料の収集による研究資源の確保、2つ目の柱は、海外引揚の国際的視野からの総合的かつ立体的な研究であり、とくにソ連の政策分析とドイツ等諸外国との比較研究を中心とする。

また、これらの調査・研究を通じて、研究資源の蓄積と同時に、若手研究者の育成を図る。具体的には、2つの柱に対応した研究プロジェクトを組織（A・B）、各組織内に2チーム（Aは口述記録収集・一次資料収集、Bは国際関係史研究・比較史研究）を編成して研究計画を実施する。

【期待される成果と意義】

本研究を通じて、海外引揚に関する一次資料および口述記録・手記からなる一大研究資源が蓄積され、次世代における研究環境の向上が期待される。また、アーカイブズ学による調査収集論・資料整理論・保存管理論を取り入れることで、単に歴史研究のみならず史料学・記録資料学分野への貢献にも繋がるものとなる。さらに、戦争体験の風化が叫ばれる今日において、戦争体験の次世代

への継承を図ることで一般社会に対して大きな貢献となりうる。

この他、国際関係史および比較史的アプローチを通じて、諸外国の研究者も巻き込んだより国際的かつ大規模な研究プロジェクトへと発展させ、日本近現代史が世界史的広がりを持つものであることを具体的に示し、海外引揚研究の進展だけではなく、日本近現代史の新たな可能性を提示できると確信する。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・『満鉄全史―「国策会社」の全貌』（講談社、2006年）
- ・「満洲体験の精神史」（劉傑・川島真編『1945年の歴史認識』東京大学出版会、2009年）
- ・「戦後東アジアの冷戦と満洲引揚」（『東アジア近代史』第9号、2006年3月）

【研究期間と研究経費】

平成21年度～25年度

61,700千円

ホームページ等

k.kato@nijl.ac.jp